

夢窓国師の作と、われる 庭園 尊氏の爪墓が現存

滋賀県長浜市

安楽寺

滋賀県長浜市は、新幹線停車駅の米原市の北側に有り、滋賀県の北東部に位置し、湖北と言われる福井県境までの1市6町が合併した広域な市です。観光都市の一面を持ち、黒壁ガラス館、曳山まつり、冬の盆梅、竹生鳥など、数々の史跡、文化財が残っています。その中に足利氏とゆかりの深い安楽寺があります。安楽寺は細江町字安楽坊にあり、参道を通り石橋を渡れば、老松の松並木が続き、広大な田園の中に、藤原時代の荘園の面影をとどめています。また、尊氏の帰依した天龍寺開山夢窓国師の作といわれる庭園は、東に伊吹山、西に遙か比良比叡山系を眺め、前方に数多くの老松を借景とする山水廻遊式鶴亀庭園です。また、尊氏の遺命により造られた尊



氏の爪墓が現存しています。その右側に第一名石「進み石」があり、この石のいわれは、尊氏と直義との争いの際、尊氏公北国街道を北に進軍中、安楽寺の東にて石の呪いにて軍馬進まず、尊氏公難儀の時、当山第三世万叡和尚に助けを求め、和尚の法力により石の呪いを解き供養の末進軍勝利する。その恩義に報い將軍家直轄寺院として300石の墨付と宮中の御絵所で描かれた尊氏公画像を賜る。
現在は、宝物館に尊氏公位牌と共に展示してあります。

尊氏御教書 伝承の寺

兵庫県丹波市

石籠寺



丹波市は兵庫県の中央東に位置し、緑の山に囲まれた豊かな自然と歴史に育まれたところです。また、古来より都の後背部、山陽、山陰に通ずる交通の要衝にあたることから、数多くの文化財や伝説が残っています。丹波市山南地域は尊氏のエピソードが数々残されている、尊氏ゆかりの地です。なかでも、特にゆかりの深いお寺が石籠寺で聖徳太子の開創と伝える古刹です。観応2年(1351)弟の直義等との戦いに敗れた尊氏は子義詮に仁木兄弟等2千余騎を添え「丹波の井原石籠に留める」と太平記巻29にあります。
また、観応元年(1350)と文和3年(1354)の尊氏の御教書が寺に残っていて尊氏等との関係が深かったこ



とを物語っています。また、中世この地方の豪族であった久下氏は尊氏が亀岡篠村で反北条の兵を挙げた時以来足利氏と行動をともしました。平成6年石籠寺では、尊氏が京都の東寺に寄進した梵鐘に模して梵鐘を新鑄、さらに東寺の鐘樓を参考に山上に鐘樓を造立、足利氏ゆかりの寺宝が増えました。石籠寺はもみじの美しい寺として知られ、毎月11月の第3日曜には、「足利氏ゆかりの石籠寺もみじ祭」が開催されます。